

(2019年度)

5 世界史問題 (60分)

(この問題冊子は24ページ，4問である。)

受験についての注意

1. 試験監督者の指示があるまで，問題冊子を開いてはならない。
2. 試験開始前に，試験監督者から指示があったら，解答用紙の右上の番号が自分の受験番号と一致することを確認し，所定の欄に氏名を記入すること。次に，解答用紙の右側のミシン目にそって，きれいに折り曲げてから，受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し，机上に置くこと。
3. 試験監督者から試験開始の指示があったら，この問題冊子が，上に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
4. 筆記具は，HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能，計算機能，辞書機能を使用してはならない。また，スマートウォッチなどのウェアラブル端末を使用してはならない。
5. 解答は，解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで，そのマーク欄をぬりつぶすこと。
6. マークをするとき，マーク欄からはみ出したり，白い部分を残したり，文字や番号，○や×をつけたりしてはならない。また，マーク箇所以外の部分には何も書いてはならない。
7. 訂正する場合は，消しゴムでていねいに消すこと。消しきずはきれいに取り除くこと。
8. 解答用紙を折り曲げたり，破ったりしてはならない。
9. 試験監督者の許可なく試験時間中に退場してはならない。
10. 解答用紙を持ち帰ってはならない。
11. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

1 次の文章(A～E)を読んで、後の問(1, 2)に答えなさい。解答は選択肢(a～d)から、もっとも適切なものを1つ選びなさい。

- A 道教は、古くからの民間信仰と(ア)に道家の説を取り入れてできたものだが、嵩山にこもって啓示を受けた寇謙之は、後漢の(イ)が始めた旧来の天師道の改革を志し、新天師道を開いた。そして、新天師道は北魏の(ウ)の信任をかちとって国家宗教となり、激しい仏教弾圧がおこなわれることにもなった。
- B かつて明に仕えた者として節を立て、清に仕官しなかった顧炎武は、社会秩序の回復のためには、現実を離れた空論ではなく、古典研究をふまえた文献実証の学問が必要だと唱え、(エ)などの作品を著した。その実証的な学問方法から、(オ)を著した黄宗羲らとともに、いわゆる清朝考証学の先駆者とされた。
- C 宋学は、北宋の(カ)に始まり、南宋の朱熹によって大成されたので、朱子学ともいわれる。朱熹は格物致知説、性即理説などを唱え、客観的な事物の道理をきわめつつ自己修練をおこなうことを主張して、心即理説を唱えた(キ)と対立した。また朱熹は実践的には、君臣間の厳格な区別を強調する大義名分論を説き、それを強調した歴史書(ク)を著した。
- D 唐の都長安を出発し、西域を経てインドに赴いた玄奘は、ヴァルダナ朝のハルシャ王の厚遇を受け、(ケ)時代に建立されたナーランダー僧院で五年ほど学んだ後、多くの経典や仏像を携えて帰国した。そして、(コ)に『五経正義』の編纂を命じるなど、文化事業にも熱心だった(サ)の勅命により仏典の漢訳をおこない、これによって(シ)を開いた。また(サ)に対する報告書として、旅行記(ス)を著した。
- E 金の時代には、仙人になる修行の要諦を授けられた道士王重陽が(セ)をおこした。(セ)は儒、仏、道三教の調和を唱え、禅宗の影響も受けて静座を奨励するなど、実践的で庶民的な性格を持った。元の時代には、政権と結びついた天師道の教主が、江南一帯の道教を掌握し、公式に(ソ)と称するようになった。そして明の時代になると、華北を(セ)、江南を(ソ)とい

う形で道教界を二分した。

問1 空欄(ア～ソ)に入る語はそれぞれ何か。

- (ア) a 因果応報説 b 陰陽五行説 c 讖緯思想 d 神仙思想
- (イ) a 張陵 b 張角 c 張儀 d 張魯
- (ウ) a 孝文帝 b 道武帝 c 獻文帝 d 太武帝
- (エ) a 『二十二史考異』 b 『日知録』 c 『崇禎曆書』
d 『明夷待訪録』
- (オ) a 『明夷待訪録』 b 『聊齋志異』 c 『音楽五書』
d 『二十二史考異』
- (カ) a 歐陽脩 b 程頤 c 周敦頤 d 程顥
- (キ) a 陸九淵 b 王守仁 c 蘇軾 d 夏珪
- (ク) a 『新唐書』 b 『資治通鑑』 c 『資治通鑑綱目』
d 『四書集注』
- (ケ) a クシャーナ朝 b マウリア朝 c マガダ国
d グプタ朝
- (コ) a 柳宗元 b 孔穎達 c 鄭玄 d 何晏
- (サ) a 高宗 b 玄宗 c 則天武后 d 太宗
- (シ) a 天台宗 b 浄土宗 c 真言宗 d 法相宗
- (ス) a 『大唐西域記』 b 『仏国記』 c 『西遊記』
d 『南海寄帰内法伝』
- (セ) a 白蓮教 b 正一教 c 全真教 d 天道教
- (ソ) a 全真教 b 太平道 c 白蓮教 d 正一教

問2 A～Eの下線部の語句に関する下記の間(1～10)で、文章①、②が、両方とも正しい場合はa、①が正しくて②が誤っている場合はb、①が誤っていて②が正しい場合はc、①、②が両方とも誤っている場合はdを選びなさい。

(1) Aの後漢に関して、

- ① 漢帝室の後裔を称した劉備が洛陽で建国し、現在の四川省に領土を拡大した。
- ② 最後の皇帝となった献帝が、曹丕に帝位を禅譲することによって滅んだ。

(2) Aの北魏に関して、

- ① 鮮卑の一氏族である拓跋氏の拓跋珪が建国した。
- ② 大同近郊の雲崗や、洛陽南方の竜門の石窟寺院の開削を始めた。

(3) BおよびEの明に関して、

- ① 黄巾の乱で頭角をあらわした貧農出身の乞食僧朱元璋が建国した。
- ② 最後の皇帝崇禎帝は、農民反乱軍を率いた呉三桂に北京城を包囲されて自殺した。

(4) Bの清に関して、

- ① ホンタイジが国号を清、民族名を満州とした。
- ② 最後の皇帝宣統帝は、後に満州国の皇帝となり、満州国滅亡の際に自殺した。

(5) Cの北宋に関して、

- ① 建国者趙匡胤は科挙に殿試を導入し、文治政治と皇帝権の強化をはかった。
- ② 澶淵の盟により、遼が後唐から獲得した燕雲十六州を取り戻した。

(6) Cの南宋に関して、

- ① 北宋最後の皇帝欽宗の子で、江南に逃れた孝宗が宋を再建した。
- ② 「清明上河図」は経済的に繁栄する臨時の都臨安の様子を描いたといわれる。

(7) Dの唐に関して、

- ① 中書省に所属した政令執行、行政事務部署である六部の制度が確立した。
- ② 黄巢の乱の幹部であった朱全忠が、最後の皇帝哀帝を廃して唐を滅ぼした。

(8) Dのヴァルダナ朝に関して、

- ① 都はパータリプトラにおかれ、中国では曲女城とよばれた。
- ② ヴァルダナ朝崩壊後の北インドは、ラージプート時代とよばれる小王国分立時代となった。

(9) Eの金に関して、

- ① 女真族の完顔阿骨打が遼に反旗をひるがえし、皇帝を称して建国した。
- ② 行政・軍事組織、またその長官の名を示す猛安・謀克の制度がおこなわれた。

(10) Eの元に関して、

- ① 政府の首脳部をモンゴル人が独占したため、科挙がおこなわれなかった。
- ② フビライの命で、モンゴル語を表記するためにパスパ文字が作られた。

2

ヨーロッパには古代からさまざまな民族が流入し、紛争や略奪の一方でネットワークの構築や文化交流が進んだ。人の移動に関する次の文章(A～D)を読んで、後の問(1～3)に答えなさい。

(A) 「北の人」を表すノルマン人は、スカンディナヴィア半島や(ア)半島を居住地とする(イ)人である。古くから優れた航海技術を生かして遠方まで進出し、その一派は大西洋を渡ってアメリカ大陸に到達したともいわれる。ヨーロッパ各地に国や王朝を築き、その文化はさまざまに分化した。たとえばノルマン朝の君主はイングランドとフランスにまたがって統治をおこない、主に宮廷で使われた豊富なフランス語の語彙を英語にもたらしたという。

- (B) マジャール人は、ウラル語系に属するハンガリー人の自称である。フィン人⁽⁴⁾やバスク人と同様、ヨーロッパの主流であるインド=ヨーロッパ語系に属さない少数派である。東からヨーロッパに流入した彼らの定住地となったパンノニア平原は、過去にフン人⁽ⁱⁱ⁾が同じく東から流入し植民した地域であるが、フン人とマジャール人の関係は明らかでない。マジャール人は(ウ)のオットー1世⁽⁵⁾との戦いに敗れたのち、ローマ=カトリックを受容した。
- (C) トルコ系の人々がアナトリアに建国したオスマン帝国は、イスラーム国家⁽⁶⁾である。同時代の西欧人に「トルコ帝国」と呼ばれたが、じっさいは「トルコ人」だけではなく、さまざまな民族が支配層に参入した多民族国家であった。(エ)年にビザンツ帝国を滅ぼし、その過程でバルカン半島や東欧に領土を広げ、西欧諸国との交易も拡大した。⁽⁷⁾⁽⁸⁾しかし18世紀以降は逆に、ヨーロッパ列強の圧力に屈し、衰退していった。19世紀の諸改革が実を結ぶ前に第一次世界大戦で敗戦国となり、1922年に(オ)が廃止されて滅亡した。⁽⁹⁾
- (D) ユダヤ人は、ユダヤ教成立以降のヘブライ人を指す。パレスチナの地にあったヘブライ人の国は、南北分裂後に残ったユダ王国が(カ)に滅ぼされると、住民がバビロンに連行された。祖国を失ったこの経験からユダヤ教が成立し、ユダヤ人の民族的団結を維持する役割を果たしたとされる。⁽ⁱⁱⁱ⁾⁽¹⁰⁾その後、離散したユダヤ人の多くがヨーロッパに移住し、キリスト教世界でさまざまな差別⁽¹¹⁾や迫害を受けた。第二次世界大戦後にイスラエル建国が実現したものの、これにより今度はパレスチナ人が故郷を追われ難民化する⁽¹²⁾という皮肉な現象が起こっている。

問1 本文中の下線部(1～12)に関する問いに答えなさい。

(1) ノルマン人がつくった国といえないものを選択肢(a～h)から2つ選びなさい。

- a スウェーデン王国 b ノヴゴロド国 c アイスランド
- d デンマーク王国 e スコットランド f アイルランド
- g ノルウェー王国 h 両シチリア王国

(2)に関する記述として誤っているものを選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a アイスランドでは、北欧神話「エッダ」などが継承された。
- b ヴァイキングとも言われた初期のノルマン人は、略奪も行ったが、捕鯨や交易などの平和的な経済活動も活発に行った。
- c ノルマン人が地中海で建国した国は、ヨーロッパにイスラーム文化を伝える重要な役割を果たしたが、18世紀にイタリアに併合された。
- d キエフ公国はビザンツとの交流を積極的に行い、ギリシア正教を国教化した。

(3)に関する出来事を年代順に並べると、2番目に来るのはどれか。

- a セーヌ河口域に、「ノルマン人の土地」という名の公国が建国された。
- b アングロ＝サクソン王国のアルフレッド大王がノルマン人を撃退した。
- c ノルマンディー公ウィリアムがイングランドの王位を主張して、これを征服した。
- d イギリス最古の大学がオクスフォードに創設された。

(4)の歴史に関する記述として誤っているものを、選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a ナポレオンによる一連の戦争中、1809年ロシアに併合された。
- b 1917年のロシア革命を機に独立し、王国を確立した。
- c 13世紀末に西隣のスウェーデンに統合された。
- d ロシアに併合されて大公国となった時代に民族意識が高まった。

(5)に関する説明として誤っているものを選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a 完全な世襲ではなく、選挙王政を敷いた国の王である。
- b マジャール人の侵入からキリスト教世界を防衛した功労者として、教皇レオ3世から皇帝の帝冠を受けた。
- c 彼の戴冠を起源とする国はのちに神聖ローマ帝国と呼ばれた。
- d 十字軍のころの皇帝とは異なり、教会を統制して強固な王権を確立する力がまだあった。

(6)の世界からキリスト教世界への学問の伝達に関する記述として誤っているものはどれか。選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a 両シチリア王国ではアラブ人やギリシア人の学者が集い、イスラーム・ビザンツ両世界の文献が多くラテン語に翻訳された。
- b イスラーム世界で生まれたゼロの概念は、アラビア語の数学書がラテン語に翻訳されることにより、10世紀のキリスト教世界に伝えられた。
- c イブン＝ルシュドがアリストテレスのほぼすべての著作にほどこした注釈がラテン語に翻訳され、中世スコラ学に多大な影響を与えた。
- d 一時はウマイヤ朝軍に征服されたトレドがカスティリヤ王国治下に入ると、アラビア語からラテン語への翻訳作業が盛んに行われ、古代ギリシアのさまざまな学問がキリスト教世界に伝わった。

(7)に関する説明として誤っているものを選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a 首都コンスタンティノーブルに建立されたハギア＝ソフィア聖堂は、ビザンツ様式の代表的建築物である。
- b 中世初期は、ゲルマン人の大移動により国土の3分の1が荒廃した。
- c 東ローマ帝国とも呼ばれるが、文化的にはローマよりむしろギリシアに近く、ギリシア正教とギリシア古典文化を融合した独自の文化的世界をつくった。
- d 最盛期の皇帝ユスティニアヌス1世は、ローマ帝国の栄光回復に努め、ローマ法の集大成となる法典を編纂させた。

(8)に関して、オスマン帝国の動向を時系列に並べて2番目に来るのはどれか。

- a モハーチの戦いの後ブダを占領し、ハンガリーの支配を開始した。
- b バルカン半島南部のアドリアノーブルからイスタンブルに遷都した。
- c ニコポリスの戦いでハンガリー王率いる連合軍を破り、ドナウ川下流域の支配を確立した。
- d フランスに通商上の恩恵的特権としてのカピチュレーションを公認した。

(9)のころのオスマン帝国の政策でないものを、選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a 近代化を内外に示すため初の憲法を制定し、二院制の国会設置を規定した。
- b 近代化改革を妨げる存在となっていたイエニチェリを解体した。
- c 宗教を問わず、オスマン臣民に法の下での平等、身体・名誉・財産の保障などを約束した、ギュルハネ勅令を公布した。
- d 青年将校らが立憲制を宣言した青年トルコ革命を追認し、立憲制を宣言した。

(10)に関する記述として誤っているものを選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a バビロンに連行されていたユダヤ人は、その後アケメネス朝のバビロン侵攻によって解放された。
- b バビロン捕囚からの解放後、ユダヤ人はイェルサレムに神殿を再興した。
- c ユダヤ教の成立にさいしては、最後の審判や天使・悪魔の思想にマニ教の影響が見られる。
- d 民族的団結を維持する役割を果たしたとされるユダヤ教の選民思想・メシア信仰のうち、イエスは選民思想を否定し、普遍的な愛を主張した。

(11)の具体例として誤っているものを選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- a レコンキスタ貫徹後のスペイン王国は、キリスト教に改宗しないムスリムとユダヤ教徒を国外追放した。
- b 中世キリスト教世界では、土地の所有が認められなかったユダヤ人は金融・商業を営んだが、それがために民衆の憎悪を招くこともあった。
- c ナチス支配下のヨーロッパでは、アウシュヴィッツなど各地の収容所で計画的な虐殺などにより、600万人のユダヤ人が殺されたといわれる。
- d ナチス政権下のドイツでは、ユダヤ人の公民権を奪い、ドイツ人との通婚を禁止するベルリン法が制定された。

(12)パレスチナ紛争をめぐる出来事を年代順に並べると、2番目に来るのはどれか。

- a 国連総会で、パレスチナをユダヤ人とパレスチナ人の国家に分割するパレスチナ分割案が決議された。
- b アラブ諸国の反発を受けながらイスラエルとの和平政策を進めたエジプトのサダト大統領がイスラーム主義者により暗殺された。
- c 第1次中東戦争が勃発し、パレスチナの地を追われたパレスチナ難民が多数うまれた。
- d パレスチナの解放を目的とする組織として、パレスチナ解放機構(PLO)が結成された。

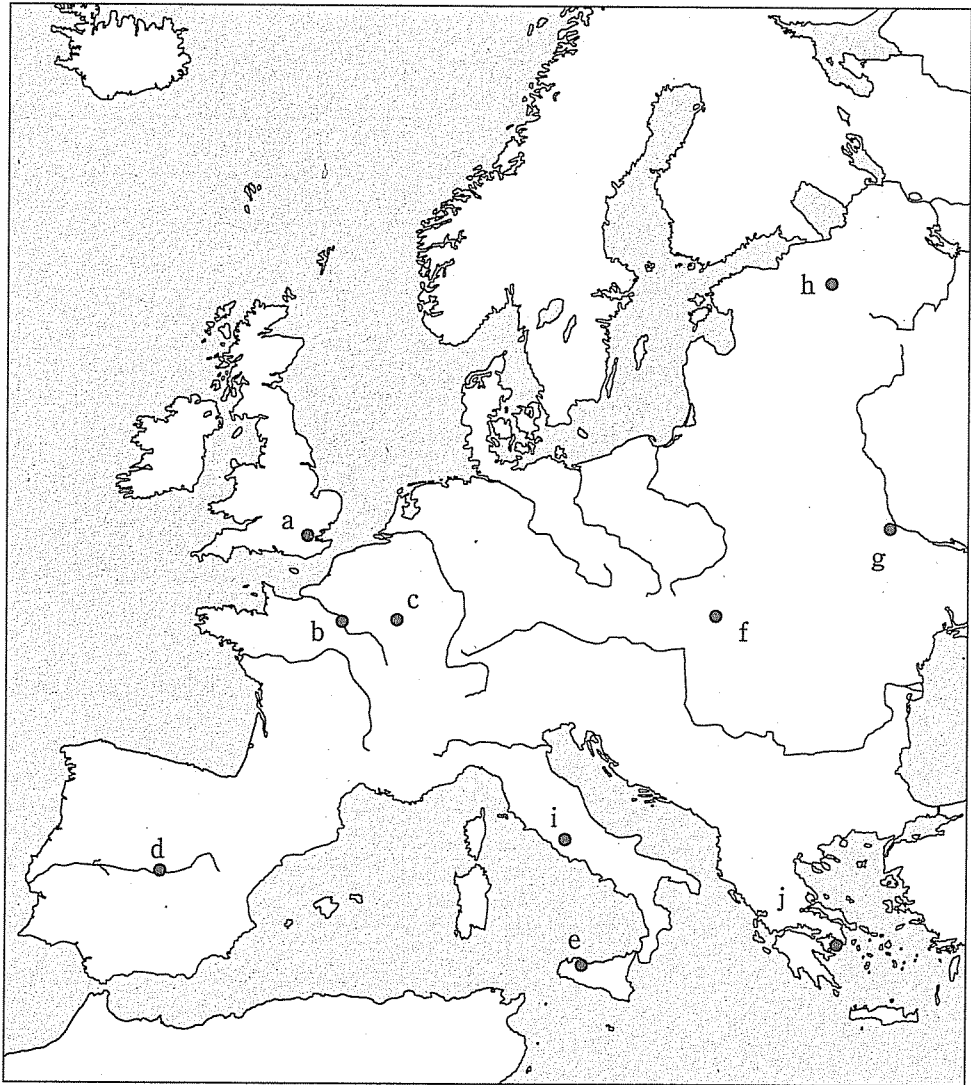
問2 本文中の空欄(ア～カ)に当てはまる言葉は何か。それぞれ選択肢(a～d)から1つ選びなさい。

- (ア) a ブルターニュ b ユトランド c クリミア
d ユトレヒト
- (イ) a フランク b ゲルマン c スラブ d サクソン
- (ウ) a 東フランク王国 b 西フランク王国 c 西ゴート王国
d 東ゴート王国
- (エ) a 1204 b 1422 c 1453 d 1529

- (オ) a テイマール制 b デヴシルメ c スルタン制
 d イクター制
- (カ) a アッシュル=バニパル b ダレイオス1世
 c キュロス2世 d ネブカドネザル2世

問3 本文中の波線部(i～iii)に関する次の問いに答えなさい。

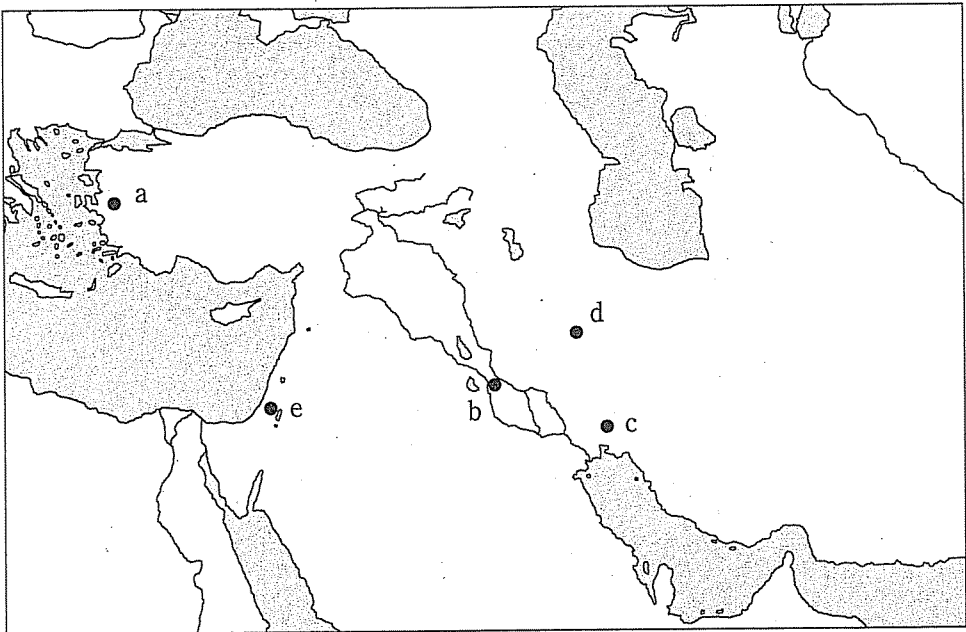
地図A



(1) 地図Aについて、9～12世紀にノルマン人が建てた国や王朝の中心都市を選択肢(a～j)から4つ選びなさい。

(2) 地図Aについて、(ii)の王アッティラが、ローマとゲルマン人の連合軍と戦った場所を選択肢(a～j)から1つ選びなさい。

地図B



(3) 地図Bの中で(iii)の都市があった場所はどこか。選択肢(a～e)から1つ選びなさい。

3 フランスの植民地に関連する次の文章(A～E)を読んで、問(1～9)に答えなさい。

(A) 北米大陸では、まずセントローレンス川を遡ったところにシャンプランがケベック植民地を建設したが、その時のフランス国王は、(1)であった。この入植には、本国のユグノー戦争の延長として、カトリック教会^(ア)が新たなカトリックの土地を求めて積極的に関与したため、カトリック的性格の強い植民地となった。さらに、(2)年にナントの王令(勅令)が廃止されたときには、追放されたユグノーが入植して同じプロテスタントのイギリス領北米植民地に近づくのを恐れて、彼らの入植を禁じたことも、ケベック^(イ)のカトリック化へ拍車をかけた。しかし、冬の寒さの厳しさなどにより、人々は容易に根づかなかった。

(B) ヨーロッパ大陸でのイギリスとフランスとの対立に呼応して植民地でも戦いが勃発した。(3)後のユトレヒト条約で、イギリスはアカディア・ニューファンドランド、ハドソン湾岸地域を獲得した。また、七年戦争^(ウ)とフレンチ＝インディアン戦争終結後の(4)条約で、イギリスは、一部の島を除いたカナダとミシシッピ川以(5)のルイジアナをフランスから割譲された。この時、ミシシッピ川以(6)のルイジアナは、フランスからスペインへ割譲され、スペインからイギリスに割譲されたのは、(7)であった。

(C) 17世紀以降西インド諸島において、いくつかのフランス植民地が建設された。なかでも、18世紀に大きく成長したのが、サン＝ドマング^(エ)であった。ここでは、黒人奴隷労働を用いてコーヒーや砂糖を生産するプランテーション経済が広がっていった。1791年にこの地で黒人奴隷の反乱が起こり、本国の(8)は1794年に黒人奴隷解放を宣言した。ナポレオンは弾圧政策を取った結果、この反乱は独立運動へと発展し、ハイチとして独立した。この運動を指導した一人がトゥサン＝ルヴェルチュール^(オ)であった。

(D) フランス国民の関心を外にそらす目的で、1830年5月、国王(9)はアルジェリアに出兵した。この事件は、フランスによるアルジェリアの植民地化の始まりとなった。100年を超えるアルジェリア支配により、フランス本国出身者のみならず、イタリアやスペインといった近隣諸国出身でフランス国籍を取得した「フランス」人や彼らの子孫が増えていった。本国政府、ヨーロッパ系住民、ムスリム系住民の利害が複雑にもつれる中で、フランスからの独立に強く反対するフランス軍部および入植者と、独立容認派との間で内戦状態になる。軍事費負担がかさむ中で、第(10)共和政憲法下で大統領に就任したド＝ゴール^(カ)が主導し、1962年にアルジェリアの独立が認められた。その後、長期に政権を握ったのが、民族解放戦線(FLN)であった。

(E) 19世紀初めのベトナムでは、フランス人宣教師(11)が本国から連れてきた義勇兵やタイ・ラオスの援助を受けて、阮福暎が阮朝を建てた。その後、フランスはベトナムに対して特別な利害関心を持ち、阮朝によるカトリック宣教師への迫害を理由に軍事介入を行ない、ベトナム南部を割譲させた。これに対して、劉永福が組織した(12)軍は北部で抵抗運動をおこすと、フランスは北部に進出し、1883年の(13)条約により北部と中部を支配下においた。清朝^(キ)はベトナムへの宗主権を主張して派兵したため、清仏戦争が起こったが、その結果、1885年の天津条約でベトナムに対するフランスの保護権が承認された。フランスは、1863年以来保護国としてきたカンボジア^(ク)とあわせて、1887年にフランス領インドシナ連邦を成立させ、(14)年にはラオスも編入した。

問1 空欄(1～14)に入る語句はどれか。解答は、選択肢(a～e)からもっとも適切なものを1つ選びなさい。ただし、空欄(5)と(6)は選択肢(a～d)からもっとも適切なものを1つ選びなさい。

(1) a アンリ4世 b シャルル9世 c シャルル10世
 d ルイ14世 e ルイ18世

(2) a 1651 b 1685 c 1689 d 1694 e 1713

- (3) a オーストリア継承戦争 b オランダ戦争
 c スペイン継承戦争 d ファルツ戦争(アウクスブルク同盟戦争)
 e 南ネーデルラント継承戦争
- (4) a アーヘン b カトー=カンブレジ c カルロヴィッツ
 d パリ e ラシュタット
- (5) a 東 b 西 c 南 d 北
- (6) a 東 b 西 c 南 d 北
- (7) a ヴァージニア b ジブラルタル c テキサス
 d プリマス e フロリダ
- (8) a 国民公会 b 三部会 c 総裁政府 d 統領政府
 e 立法議会
- (9) a アンリ4世 b シャルル9世 c シャルル10世
 d ルイ14世 e ルイ18世
- (10) a 二 b 三 c 四 d 五 e 六
- (11) a バルトロメウ=ディアス b ビハール c ピニョー
 d ピノチェト e マテオ=リッチ
- (12) a 関東 b 黒旗 c 西山 d 八旗 e 八路
- (13) a サイゴン b ハノイ c バンコク d ヤンゴン
 e ユエ(フエ)
- (14) a 1899 b 1905 c 1911 d 1919 e 1945

問2 下線部(ア)に関する次の出来事を年代順に並べたとき、3番目にくるものはどれか。解答は、選択肢(a～e)からもっとも適切なものを1つ選びなさい。

- a イエズス会の結成
 b コンスタンツ公会議の開始
 c トリエント公会議の開始
 d ユグノー戦争の勃発
 e ローマ教皇レオ10世の即位

問3 下線部(イ)に関連して述べた次の文A, Bの正誤を判断し, その正しい組み合わせを選択肢(a~d)から1つ選びなさい。

A ケベックを中心とするニューフランス植民地では, 毛皮取引が盛んにおこなわれた。

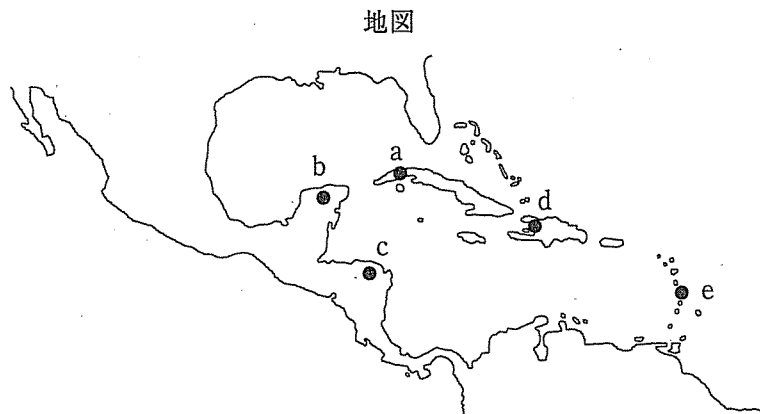
B イギリスが制定した1791年法により, ケベック地方を中心とするフランス語圏(ローワー=カナダ)とそれ以外の英語圏(アッパー=カナダ)の各議会が一つに統合された。

- a A=正 B=正 b A=正 B=誤 c A=誤 B=正
d A=誤 B=誤

問4 下線部(ウ)の時期に存在していた王朝名はどれか。解答は, 選択肢(a~e)からもっとも適切なものを1つ選びなさい。

- a クディリ朝 b コンバウン(アラウンパヤー)朝
c シャイレンドラ朝 d スコータイ朝 e パガン朝

問5 下線部(エ)は, 地図上のどこにあるか。解答は, 選択肢(a~e)からもっとも適切なものを1つ選びなさい。



問6 下線部(オ)に関して述べた次の文A, Bの正誤を判断し, その正しい組み合わせを選択肢(a~d)から1つ選びなさい。

A 彼は, 西アフリカから奴隷としてサン=ドマングに連れてこられた。

B 彼は, 1802年にフランスで幽閉された。

a A=正 B=正 b A=正 B=誤 c A=誤 B=正

d A=誤 B=誤

問7 下線部(カ)に関連する記述として正しいものはどれか。解答は, 選択肢(a~e)からもっとも適切なものを1つ選びなさい。

a 第二次世界大戦でフランス降伏に反対し, ニューヨークに自由フランス政府を樹立した。

b 1960年に初の核実験を大西洋で成功させた。

c 1968年の五月危機で権力基盤を固め, 翌年大統領再選を果たした。

d NATOのあらゆる機構から完全に離脱した。

e 1964年に中華人民共和国との国交を樹立した。

問8 下線部(キ)で起こった外交上の事件を年代順に並べたとき, 3番目にくるのはどれか。解答は, 選択肢(a~e)からもっとも適切なものを1つ選びなさい。

a アロー号事件

b 円明園の破壊

c キャフタ条約

d 黄埔条約

e 総理各国事務衙門(総理衙門)の設置

問9 下線部(ク)に関する記述として誤っているものはどれか。解答は、選択肢(a～e)からもっとも適切なものを1つ選びなさい。

- a 1953年にフランスから正式に独立した。
- b ヘン=サムリン政権は、中国の支援を受けてカンボジアに軍事侵攻した。
- c ベルリンの壁が崩壊した年に、ベトナム軍はカンボジアから撤退した。
- d フンセン政権下でASEAN(東南アジア諸国連合)に加盟した。
- e この国の有名な遺跡であるアンコール=ワットの修復・保存に上智大学は協力している。

4 ロシア史に関する以下の設問(1～2)に答えなさい。

設問1 以下(1)～(10)の文(a～d)のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- (1) a ナポレオンは、ロシアが大陸封鎖令を無視してオスマン帝国に穀物を輸出すると、1812年に大軍を率いてロシアに遠征したが、失敗に終わった。
- b ナポレオンのロシア遠征に勝利したロシアは、ヨーロッパにおける存在感を強め、戦後処理のために開催したウィーン会議では、ロシア皇帝アレクサンドル1世が議長として会議を主導した。
- c 1815年にロシア皇帝アレクサンドル1世が提唱した神聖同盟には、ヨーロッパのほとんどの君主が参加した。
- d ロシアは、神聖同盟のほか、フランス、プロイセン、オーストリアと四国同盟を結んだが、イギリスはこれに加わらなかった。

- (2) a 1825年、ロシア皇帝ニコライ1世の即位に際して、貴族の青年将校が改革を求めるステンカ＝ラージンの反乱を起こした。
- b ニコライ1世は、オスマン帝国内のギリシア正教徒の保護を理由に、1853年、オスマン帝国とのあいだでクリミア戦争を開戦した。
- c クリミア戦争では、プロイセンとオーストリアは、ロシアの南下を阻止するためオスマン帝国側にたって参戦した。
- d クリミア戦争の敗北後、国内改革を迫られることになったニコライ1世は、1861年に農奴解放令を出した。
- (3) a ロシアは、東シベリア総督ムラヴィヨフのもとで中国への圧力を強め、1858年に清と北京条約を結んで黒竜江以北を領有した。
- b ロシアは、さらに1860年、キャフタ条約を締結して沿海州を獲得、ウラジヴォストーク港を開いて太平洋進出の根拠地とした。
- c ロシアは、イスラーム教徒の反乱を機にネルチンスク地方に出兵、1881年、ネルチンスク条約によって清国との国境を有利に取り決めた。
- d ロシアは、19世紀後半には中央アジア南部にも侵攻し、ブハラ＝ハン国、ヒヴァ＝ハン国を保護国とし、コーカンド＝ハン国を併合して、ロシア領トルキスタンを形成した。

- (4) a 1890年代から、ロシアの資本主義はもっぱらドイツからの資本導入によって発展し、都市では大工業が急速に発展した。
- b 1905年、日露戦争後のポーツマス条約に反対して集まった民衆を衛兵が銃撃するという血の日曜日事件が起こると、農民蜂起、労働者のストライキ、民族運動が全国的に吹き出した。
- c 血の日曜日事件後、皇帝ニコライ2世は十月宣言を発して、立法権を持つ国会(ドゥーマ)の開設、市民的自由などを認め、ウイッテを首相に登用した。
- d 1906年、首相になったウイッテは、農村共同体(ミール)を解体し、独立自営農を育成しようとしたが挫折した。
- (5) a 1917年3月、首都モスクワでパンと平和を求める民衆の大規模なデモやストライキが起こると、軍隊も加わってたちまち各地に広がり、労働者・兵士はソヴィエトを組織し、革命を推進した結果、皇帝ニコライ2世は退位し、帝政は崩壊した。
- b 1917年3月、ドゥーマ(国会)の立憲民主党など自由主義諸党派の議員は、社会革命党らの支持をうけて、臨時政府を樹立した(これを露暦にもとづいて「二月革命」と呼ぶ)。
- c 1917年10月、ボリシェヴィキの指導者レーニンが亡命先のフィンランドから帰国すると、臨時政府内でボリシェヴィキの勢力は拡大し、新たに首相となったケレンスキーと対立した。
- d 憲法制定会議選挙の結果、第一党になれなかったボリシェヴィキは、1917年11月7日、武装蜂起を指揮して、憲法制定会議を封鎖するとともに、臨時政府を打倒して権力を握った(これを露暦にもとづいて「十月革命」と呼ぶ)。

- (6) a レーニンらは世界革命をめざして、1919年、モスクワでコミンフォルムを創設した。
- b ロシア革命の拡大をおそれた列強諸国は、反革命政権を援助し、さらに直接にシベリアなどに軍隊を派遣して、対ソ干渉戦争に乗り出したが、ソヴィエト政府は、志願兵を募って赤軍を組織してこれに対抗し、チェカ(非常委員会)を設置して反革命派を取り締まった。
- c 1922年、ロシア・ウクライナ・ベラルーシ(白ロシア)・カザフスタンの4つのソヴィエト共和国が連合してソヴィエト社会主義共和国連邦を結成した。
- d 1922年に共産党書記長になったスターリンは、世界革命を主張し、ソ連一国だけで社会主義建設ができるとする一国社会主義論を掲げるトロツキーらを追放して実権を握った。
- (7) a ソ連では、1928年以降、第1次五カ年計画の実施と並行して、農業の国有化も推進され、新経済政策(ネップ)のもとで発展した集団農場(コルホーズ)にかわって国営農場(ソフホーズ)が生産の中心となった。
- b スターリンは、自身の地位を危うくする可能性のある古くからの有力指導者を国外追放するなどして個人崇拜を強めたが、反対派とみなした人々の大量処刑などは第2次世界大戦が終了するまではおこなわなかった。
- c 1933年に始まった第2次五カ年計画では、国民生活の向上にも配慮し、1936年には信教の自由や民族間の平等などを規定したスターリン憲法が発布された。
- d ソ連は、第2次世界大戦の開始までは、独自路線を採用して国際社会で孤立し、国際連盟にも参加しなかった。

- (8) a 1943年11月、ローズヴェルト、チャーチル、スターリンによるカイロ会談で対日処理方針を定めたカイロ宣言が発表された。
- b カイロ会談にひきつづいておこなわれたテヘラン会談では、ローズヴェルト、チャーチル、スターリンに、蒋介石も加わって、中国の軍事支援について話し合いが行われた。
- c 1945年2月、ローズヴェルト、チャーチル、スターリンは、クリミア半島のヤルタで会談し、ヤルタ協定を結んでドイツ処理の大綱やドイツ降伏後3ヵ月以内のソ連の対日参戦などを決めた。
- d 1945年7月、ローズヴェルト、チャーチル(途中でアトリーとかわった)、スターリンは、ポツダムで会談し、日本の降伏を求めるポツダム宣言を発表した。
- (9) a 1947年1月のソ連と東欧諸国の経済相互援助会議(コメコン)の創設に対抗して、同年6月、米国のマーシャル国務長官はヨーロッパ経済復興援助計画(マーシャル=プラン)を発表した。
- b 1949年1月、ソ連を中心とする東欧諸国が東ヨーロッパ相互援助条約(ワルシャワ条約機構)を結成したことに対抗して、同年4月、アメリカ合衆国を含む西側諸国は北大西洋条約機構(NATO)を結成した。
- c 1956年2月、ソ連共産党第20回大会で、フルシチョフ第一書記は、スターリン体制下の個人崇拜、反対派の大量処刑などを批判し(スターリン批判)、自由化の方向を打ち出した。
- d フルシチョフは、外交政策では、平和共存を提唱し、コミンテルンも解散したが、この転換は「雪どけ」と呼ばれ、東欧の社会主義国に衝撃を与えた。

- (10) a 1985年にソ連の大統領に就任したゴルバチョフは、行き詰まった社会主義体制を立て直すため、情報公開(グラスノスチ)による言論の自由化や国内の改革(ペレストロイカ)を提唱し、柔軟な「新思考外交」の推進も表明した。
- b 1985年、アメリカ合衆国大統領のレーガンとゴルバチョフ大統領は、米ソ首脳会談を開催し、部分的核実験禁止条約(地下を除く核実験禁止条約)に調印した。
- c 1987年の米ソ首脳会談で第1次戦略兵器制限交渉(第1次SALT)が始まったことで米ソ間の緊張緩和が進み、これをうけて1989年にソ連軍はアフガニスタンから撤退した。
- d 1989年、レーガンの後任のアメリカ合衆国大統領ブッシュとゴルバチョフは地中海のマルタ島で首脳会談を開催し、冷戦の終結を宣言し、さらに戦略兵器削減交渉(START)も1991年には妥結した。

設問2 次の文章を読んで、空欄(ア～オ)に入るものを答えなさい。解答は選択肢(a～d)からもっとも適切なものを1つ選びなさい。

1894年、全琿準らが(ア)を起こすと、日清両国軍が出兵して日清戦争となった。この戦争に敗れた清は、1895年の(イ)で、朝鮮の独立、日本に対する遼東半島・台湾・澎湖諸島の割譲、賠償金の支払い、通商上の特権付与、開港場での企業の設立などを認めた。

他方、シベリア鉄道のチタからウラジヴォストークに至る部分を清の東北地方を横断するルートで鉄道建設計画を立てていたロシアは、(イ)で日本が遼東半島を獲得すると、(ウ)を誘って、日本に圧力を加えて遼東半島を清国に返還させ(三国干渉)、1896年にその代償として清から東清鉄道の敷設権を得た。さらに、1898年には遼東半島南部を租借し、東北地方での利権の優先権を清に認めさせた。

日清戦争後の欧米列強の華北への進出は、民衆の民族的感情を高め、なかでも1900年から1901年にかけて、義和団を名乗る宗教的武術集団は、「扶清滅洋」を唱

えて鉄道やキリスト教の教会を破壊し、宣教師や信徒を排撃した。義和団が北京城内にはいると、清朝の保守排外派は、この運動を利用して列強に対抗しようとし、各国に宣戦布告した。各国は在留外国人の保護を名目に共同出兵に踏み切り、日本とロシアを主力とする8カ国の連合軍が北京を占領し、在留外国人を救出した。これを義和団事件という。1901年、敗れた清は(エ)に調印し、巨額の賠償金の支払い、外国軍隊の北京駐屯などを認めた。

義和団事件後もロシアは中国東北地方から撤兵せず、日本は、朝鮮をめぐるロシアとの対立を深めた。日本はイギリスやアメリカ合衆国からの経済援助を背景に対ロシア強硬方針をとり、1904年にロシアに宣戦し、日露戦争が始まった。日本は有利に戦争を進めていたが長期戦に耐えられるほどの経済力はなく、ロシアも社会不安を抱えていたため、(オ)の調停により、1905年にポーツマス条約を締結した。日本は、この条約で、韓国の指導・監督権、遼東半島南部の租借権、南満洲の鉄道利権、樺太(サハリン)南半分の領有権などを得た。

- (ア) a 甲午農民戦争(東学の乱) b 壬午軍乱
c 太平天国の乱 d 白蓮教徒の乱
- (イ) a 下関条約 b 天津条約
c 北京議定書(辛丑和約) d 北京条約
- (ウ) a アメリカ合衆国とイギリス b アメリカ合衆国とフランス
c イギリスとドイツ d ドイツとフランス
- (エ) a 下関条約 b 天津条約
c 北京議定書(辛丑和約) d 北京条約
- (オ) a アメリカ合衆国 b イギリス
c ドイツ d フランス



